(明治四十一年七月四日第三種郵便物認可)

京城新聞

●民長官選に對する仁川議員

民長官選令に對する仁川議員の協議會は昨紙の如くなるが尚同日各議員の所論を順次に左に掲載することゝせり

▲加來榮太郎 此問題に就ては實は大分自分でも考へて見ましたが奇妙に思ふ程了解に苦むので其仔細を是れから諸君に申上げ而して諸君の高説を拜聽しやうと思ふのでありますが尤も此官選問題の利害得失は眞先に各新聞紙が筆を揃ねて論議した處であり個人としても各自見る處を發表し京城を初めとし各民團議員協議の結果は統監への建議となり其説の容れられざるを知るや議員の總辭職を斷行すると云ふやうな狀態で官選民長に就ては京城を初め充分各地に論議があり其利害得失に就ては既に業に議論を容るゝの餘地なきものゝ如く即受けらるれば今更彼れ是れ云ふの必要もあるまいが私の思ふ處では此議論をなす人も大に政略に走り之を聞く其筋の人も亦大に感情に走り唯だ自分の信ずる處思ふ處を繰返して述ぶるまでの事で他の即ち所謂反對派の言議を開かざるやの疑あるやに思はれます大体我仁川港は統監府の出來ぬズット前から其の貿易額は韓國全港の半額を占め其當時より開港場の數か倍加せる今日に於ても尚ほ輸出入貿易額の三分の一を占めて居る人は何う云ふか知れませんか私は此仁川は韓國貿易の代表者即ち日本に對する韓國否居留民の代表者であると信ずるのでありますす何となれば日本の韓國に對する政策は貿易以外に斯く重要視す可きものかないからである此處を以て見ましても我港の責任は甚だ重大なるものがあるのであります以前の公使館時代より日本帝國の對韓政策に對しては陰に陽に官の手助けになりたいと考へ又た人民は實際官と提携して日本が韓國に對する政策に依り良果を收めしむ可き方針を以て進んだのでありますす其れは種々の事實に依て證明し得る其れ故に仁川は政府側よりも重要視され殆んど對韓政策の代表者とも參考者ともなつて居たのでありますす其一例を擧げますれば露國が曾て龍岩浦に或經營をなさんとせし時の如きは特に仁川港民に對して公使館より諮問があつたやうな譯である斯くの次第でありましたものですから其場合には若し仁川港のみに就て見れば聊からぬ不利益を被る事でも全体の利益の上より打算して倦くまで貢獻した例もありますす公使館時代に於て既に然りとせば統監府時代になつても依然能ふだけ統監府政治を贊成し眞先に對韓政策を誤まらざる熟議を以て今日に處せねばならぬのである民團法が布かれ民團の起た際には統監に招待しました其れは形式にもせよ及ばずながら補翼の赤誠より溢れ出でたものである故に内心は一層我れ〳〵共に倍に對韓政策の事に盡したいと思ふ從來屢々對韓政策を誤まられたか爲めに幾多の辛き經驗を嘗めた處の仁川港民でありますす然り我等の熱情は如上の如くである（未完）

●忠州旅行記（四）

三十日忠州 清風

夜も漸く明けたので蚊帳を出て顏を洗ひ朝飯を濟まし於て、偖て經濟事項の調査に出掛けた、其等の事は永たらしくなるから大体を話して置かう、淸州郡は所謂淸州の平野とも稱する處で米が唯一の産物で其の生産高は人に依て言ふ處が違ふが先づ十萬石から十五萬石の處である、水田は一斗落上田で三十圓中田で十五圓下田七八圓畑は一日耕が上で七十圓、中で六十圓下五十圓位ひである、地主と小作人との關係は純然たる主從の關係である、小作法は、打作若くは分作と稱して收穫を半分するものと賭作と稱して收穫の如何に拘らず定額を納むるものとの二法がある、多くの場合賭作は半作の三分の一として居る、金錢の借貸は市日を以て利子支拂期限として居る、其の返濟方法は三種ある、一は市邊と稱して毎市一圓に付き二錢宛の金利を拂ふもの、二は遞計と稱して十圓の元金に對し五十錢宛毎市二十八回に分納するもの、三は月收と稱して十圓の元金に對し五ケ月に完納するものとある、此れは古來同地に行はるゝ金錢貸借法であるからして普通日本人間がやつて居るやうに、返濟期限に一時に元金を支拂ふと云ふ事は頗る彼等の苦痛とする處である故に同地に於て日本人等が此の借行を知ちずに金錢の貸借を日本法にするから當に失敗して居ると云ふ、成程民度の低い韓民は一時に元金を支拂ふのは苦痛に違ひない、濟崩法に依るのは至極適當な方法と思はる、普通金利は六歩から一割二歩位ひのもので間には暴利を貪つて居るものも少なくない、然し其んな事をするやうなものは多くは失敗するやうである、金融組合でも日歩六錢から八錢を取つて居る、同地に流動資本として投して居るものは凡そ五萬五千圓である、其の内譯は、忠州農工銀行二萬八千九百圓、金融組合七千五百五十圓、日本人典當局壹萬三千五百圓、韓人典當局五千圓其他個人間で千圓位ひである、營業資本としては日本人五萬五千圓支那人九千五百圓である、其他土地の生産力や、市日取引高や、運輸交通の事や、日本人の生計狀態や、物價等あるが、旅行記の内へそう管々しく書くのも却つて不興であるから、省畧して追つて筆を改めて述べやう、偖て取調べも充分付かないが、此の炎天に人を訪もれ互に迷惑なので、午睡を貪らうとして宿に歸り、だらしくなく寢て見たが生來午睡嫌ひと來て居るから中々睡れない種々睡眠法を試みるけれども駄目だ、其こで今度は余念なく回想を浮ばして見る、先づ月給とりになつた身の腑甲斐なさや、學校時代の覇氣や、幾多の逆境と苦痛とに座して平氣でやつて來た事や、書生時代に着更の着物がなくて下宿屋に丸裸で寢て居た事等が其れから其れへと浮かんで來る、フト思ひ出したのは西門外に倭奴を鏖殺したと云ふ碑があると云ふ事である、此れを見ずにや居られぬと云ふので、ガバと飛び起きて西門へと驅け出したが、一向に地理が解らぬ引戻そうかと思ふたが兎に角門外に出て、城壁を一週すれば解らぬ事はないと云ふので、先づ北門を出て城壁に添つて左へ左へと周つた、行けども行けども西門には出ぬ、其の内に白雨は車軸を流すやうに降つて來た、此りや大變と思つたが雨除けする處もない、仕方がないので、今度は糞落付きに落付いて、濡れ鼠宜敷の体でやつと西門外の目指す碑に出た、頭と云はず体と云はず、丸で水の中に居るのと變りはない、白雨の中に立つて碑を見ると、高さ七尺幅三尺厚一尺許りのものに有明朝鮮國文烈公重峰先生戰場紀蹟碑として何だか八釜しい長たらしい、肩書のある、撰者・書者・篆書者の三人の名が書いて而して重峰趙先生と云ふ人が盛に日本軍を破つた事が白髮三千丈式で書いてある、其の文に依ると、文祿の役淸州の西門外で倭奴を鏖にしたので倭酋秀吉大明の君を弑して大明を一統せんと欲し朝鮮を犯すから日本の使を殺して天子に其由を奏せよと云ふたが之れを聞かれず遂に倭賊の寇する處となつて、朝鮮王は蒙塵するやうになつたのと中々に氣焔を吐いてある、倭酋だの倭賊だのと癪に障るが然し面白いものじやと一應讀んで了まつた其の時は盛んに降つて居た雨はどうだ、驚いたかと云はんばかりに、降り已んで處々に雲はちぎれて居る、雫の垂るゝ衣を面目なげに宿に歸つて着更へた、日暮し蟬は頻りに大木で鳴いて居る、諸々の山は青々として近く見へる、風に面を吹かして日の暮るゝを待つて居る、

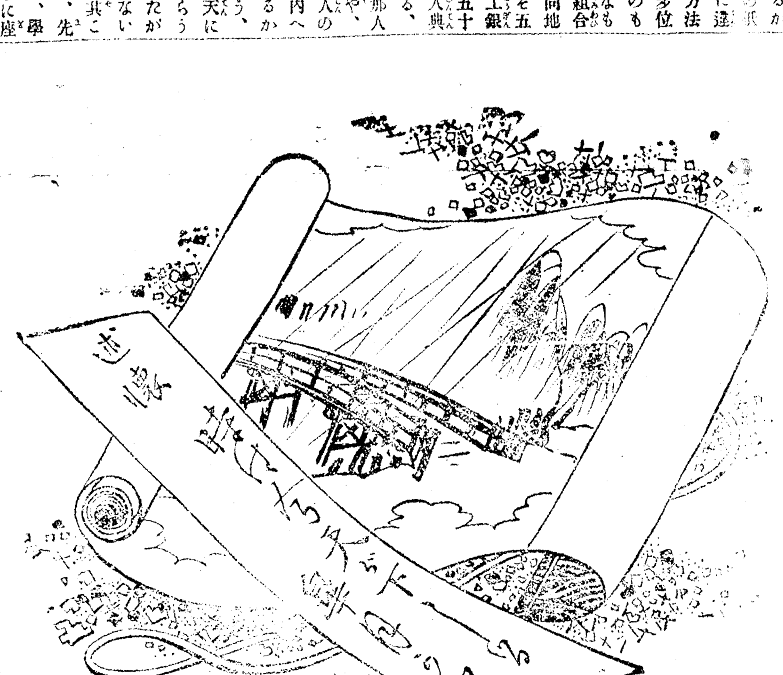
○文苑

信天翁

世の中の直ぐなる道を踏まずして蟹のまねする世とはなりにけり

友を賣り恥をも捨て利に走る人ある世こそ末の末なれ

我佩ける劍の光くもらずば茂る醜草刈り拂ふべきを



五月闇（一）

川合柳葉

山城國は宇治の里なる唯ある閑雅な土地に敢て宏壯と言ふでは無いが、さりとて又此の界隈の里人の棲居とも覺ねぬ、檜材に葺替の幽邃な一構がある。自然木の門柱には風雅な筆蹟で（御室雅數）と記した標札が、風雨に吹き曝されて、宛ら凹彫の如く文字のみ鮮に見ゆるのである。

主人と云ふは、二十歳の上を二つ三つ越した、色の白い、氣品の高そうな、奈何眺めても華族の公達か、若くは富豪の家庭に生長した、餘り浮世の波風を知らない令息かと思はるゝ美男子で、里の人々は御室の若樣々々と呼びなして居る。家族と云ふは主人雅數の外に、五十前後の小綺麗な召使の婦人が一人居るばかり、里人から若樣々々と尊敬を拂はれて居る身分としては、餘りに約な暮しである。雅數が此の宇治に移つてから既に六歳の春秋を送るが、何處に出勤めると云ふでもなく、朝な夕なに比較的廣やかな庭園を逍遙する外は、書齋に閉籠つて詩歌俳諧などの風流三昧に、日も足らない有樣である。時は丁度皐月中旬で霖々として降る五月雨は書齋の窓を訪れ、有繋に讀書癖の雅數も思はず卷を閉じて、如何にも鬱陶に堪ねられぬ如く、

「よく降るね、實に可厭だ」

と、呟きながら書齋の障子を開いて庭前を眺めると、糸の如き雨は綿々として何時降り止むべき樣子も見ねぬ、折から池塘に咲き誇りたる燕子花の、雨に褪せながらも紫の色鮮かなるに、寸時見惚れつゝ、やがて障子をヒタと締切つて元の座に着けば、坐右に備へられた置時計は鏘々と五時を報じた。

「おや、もう五時だ。」

些つと時計を眺めて、先刻から頻りに推敲した俳句に又首を傾けるのであつた。

「しよぼ濡れし袖の雫や、袖の雫や……奈何も下の一句が出ない、何か宗匠を驚かす程の名句は無いか知ら……」

獨語つゝ、餘念なく俳想に耽るのであつたが、やゝ暫くすると、

「うむ、有た〳〵、實に名句があつた、これなら宗匠も必然賞めるに違ひない。」

と短冊に認め了つた時、襖を靜に開けて、次の室より恭しく、

「若樣、京都から宗匠が被來いましてございます。」

と老婆が案内に及んだ。

「なにッ山川が參つた……直にこれへ案内致せ。」

「畏りましてございます」

召使が退ると、程なく書齋に通つたのは雅數が豫々指導を受けつゝある俳句の宗匠山川孤舟である。年の頃は三十三四、背のノツソリと高い、鼻の細長い、苦味走つた、色の青白い、如何にも風采の揚つた男である。身には黒紬の袷の上に薄茶の一ツ紋の單羽織を着て居る。見るより雅數は殊の外の機嫌顏で、

「能く來て呉れた、どうも此雨には殆ど閉口させられて居た、實に能く降るぢやないか。」

「誠に能く降りますことで、しかし益御健勝で目出たう存じます、實は一昨日伺ひますする考へで出掛て居る所を來客に襲はれまして漸く今日伺ひましたやうな次第、大層御無沙汰致して申譯がございません。」

と、鄭重に一禮した。

京城新聞

監獄の改良

脫獄頻々

伊藤統監は近來頻に治外法權撤去問題を振翳はし、是を以て公が對韓經營棹尾の光彩となし、且つ之が少なくも對韓經營の骨髓たるが如くに考へらるゝに似たり、余輩は公の如く治外法權撤去を以て帝國の對韓經營に於ける最要目とは信ぜざるも、我が保護統治の一進步と見做すを以て其撤去の速ならんことを望むものなり、伊藤統監は之を最も大責任として着々其準備に熱中せらると聞く、法律の改正完備を期する爲に梅博士其他が汲々として從事せられ、裁判所の如きは現に三級制度の文明式に依りて設置せられたり、推ふに此等も治外法權撤去の準備と見做すべきなり、法制の完備、文明式の裁判所の如き表面に現はれるものは整頓するも、裏面に於ける事物は如何、表面に現はれたる光明に反比例なる裏面の暗黑なき乎、統監政治の下にある監獄の設備は如何、韓國監獄目下の狀態は大審院迄設置さるし裁判制度に釣合を保つの程度にある乎、余輩の探聞する所に依れば監獄制度は今尙ほ舊時の面目を改めず、苛酷極る蠻的拷問の如きも廢せられず、監房の如きも舊時の儘にして、幅十四尺丈十二尺の狹隘なる室に廿人を收容し、天井は極て低く到底直立する能はず、其不潔なること言語に絕するのみならず、室內は暗黑にして光線を見ざるのみならず、殆ど空氣の流通を缺けりと、食物の粗惡、室內の不潔は尙ほ忍ぶべしと雖も、人間の生存上瞬時も缺く可らざる空氣さへ意の如く呼吸する能はずとは何たる慘酷ぞや、近時脫獄者の頻々たるは全く之に原因せりと、渠等と雖も脫獄して捕へらるれば刑の重加せらるゝことをも、場合に依れば斬殺さるゝ懼れあることを知らざるに非ず、之を知りつゝ脫獄を企る所以のものは、此等の大危險を冒しても監房に於ける忍び難き苦痛を免るゝを優るとなし、一縷の僥倖を目的に企つるなりと、監房に於ける苦痛知るべき耳、而も脫獄者の多くが未決なるに於ては更に吃驚せざるを得ず、以上の探聞を事實とすれば咄々怪事と叫ばざるを得ざるなり、余輩は曾て英人マッケンジーの韓國觀察記に於て、囚人苦楚の圖に日本の保護統治の下にある韓國囚徒と書して統監政治を攻擊せるを見たりき、一昨年或る事件の爲に當時の議政府參賛李商在が未決監に投せられて後出獄するや、苛酷なる蠻的拷問を憤慨し、統監政治の下に尙は此事あり、統監政治の誤解せらるゝは此等の點にありとし、統監に面接して具に陳述せんと統監邸を訪ひたるに或る書記官に遮られて其意を果さゞりきと、當時余輩は思へらく人道を重ずる伊藤統監の施設の下に此等の事あるは日尙は淺くして監獄の改良に迄及ばざるなりと、然るに爾來二年を經過し、而も大審院迄設置されたる今日に於て、何等改良せられたる處なしとするに至ては余りに玄關式政策なるに驚かざるを得ず、若し夫れ以上列擧せることが果して事實とすれば、法制のみ完備したり迚列國は治外法權の撤去に躊躇すべし監獄制度の完備せると否とは其國文明の度を卜するに足るとなすに非ずや、首都たる漢城府の監獄に於て然りとすれば、地方の如きは推して知るべきなり、治外法權撤去に熱中せる統監は宜しく監獄の改良に意を注ぐべし、徒に典獄や看守長を罰するのみにては改良の實を擧る能はず、自ら進で能く之を巡視すべきなり、殊に責任の衝にある內相宋秉畯氏の如きは、一昨年李商在入獄當時に寧しく未決監に在て能く事情を知得せられ居る筈なり、余輩は何れの點よりするも監獄の改良は目下の急務なりと信ず敢て當局者の反省を促すものなり

東京電報

▲小村伯歸京

明日歸京すべき小村伯は二十七日參內復奏の上廿八日外務大臣に任ぜらるべし

▲事業繰延と閣議

本日閣議を開き事業繰延に就き協議せしも遂に決定せずして散會したり(以上二十五日發)

雜報

●コールブランの引揚

韓美電氣會社の總務コールブラン氏は故ボストウヰック氏と組合にて韓政府より漢城に於ける電氣事業及び水道布設等の權利を獲て電氣鐵道會社を設立し專ら之れが事業に從事し水道は英國のシンヂゲートに依りて布設され近々通水を開始することゝなりたるとは世人の知了する所なるがコールブラン氏は今回其有する一切の權利を英國のシンヂゲートに引渡し遠からず歸國する筈にて目下引揚の準備中なりと尙ほコ氏は其有する所の甲山銅鑛は米國市場に於けるシンヂゲートに依りて採掘し自身は其營業を擔當するに至るべしと傳へらる

●水道税の同意

英國シンヂゲートの手に依て布設したる京城水道會社にては當水者に對し水道税を課せんと韓國政府に同意を求めたるも之を拒絕せられたれば統監の同意を乞ひたるに同府にては之に同意を與へ其案件は直ちに警視廳に廻送されたるも同廳にては未だ之を發表するに至らず考慮中にありと

●關税手數料及旅費

昨日の官報にて勅令を以て關税局出張所税關支署又は税關出張所にて船舶貨物に關する證明又は計表の交付を受けんとし或は其の指定の場所以外の地にて貨物の檢定を特許せられたる者は手數料及び旅費を納付すべき旨を公布せられたるが右は從來證明又は計表の交付は及指定場所以外の地にて貨物の檢查をなさゞるに當事者の出願により便宜取扱ひしも其の手數料又は旅費に關し定められたる規程なかりしを今回明かに規定せられたるものにして其の手數料の金額は度支部大臣此れを定むる事となり居れり

●脫獄事件に關し內部大臣を詰せよ

(某氏談)

內部大臣其他が常に模範監獄として誇りつゝありたる漢城監獄は彼の面倒なる梁起鐸事件を引起すの源因を作りたる外に過る近々二ヶ月間に二回の團体脫獄者を出し混亂の際なりしとは云へ未決囚弐名を斬殺するに至れり、本件に關する直接當局たる典獄及看守等の責任の輕からざるは勿論の事なるが余は內部大臣の責を以て最も重しとなすものなり、何となれば第一回の脫獄事件の後內部大臣にして能く職責を了解し典獄以下を戒飭して監督に意を盡さば今回の如き事は決して起さずして濟むものなり、聞くが如くんば現在漢城監獄の吏員等は典獄看守長看守押丁等に至るまで互に相反目して職務上決して一致することなく從て囚徒の取締上に其影響を及ぼし今回の如き不始末を暴露するに至れるなり、聞くも呆るゝは第二脫獄者を出したる當日の如きは日韓人看守數名等は職務を忘れ官服の儘相携へて某料理店に登り酒食を恣にしたる後妓生數名を擁して淸涼里に出遊したるの事實有りとのことなり、而して此は之只一例に過ぎざるがコレ以上の如何なる實が隱されつゝあるやは想像にだもつかざるべし、今や列國の眼は再び半島に向つて耀き來れり此際に於て脫獄事件の如きことを數次起らしむるに於ては統監政治の欠點を列國の眼前に暴露するも同様なり、典獄や看守長や素より罰すべきものあり而れども漢城監獄をして今日の如き狀態に陷らしめたる罪は全く內部大臣其人に歸すべきものなり、仍て余は此際官紀振肅上統監府が相當の罰を宋內相に課して一般の戒飭に資するの途に出でんことを最も必要なりと信ずるなり云々

●巡查の間島派遣

內部は間島に在る韓民保護のため今回韓人巡查李載恭外十一名を派遣する事とし本月廿九日釜山より乘船出發する筈にして此の巡查は曩に派遣せる警視警部巡查と共に統監府出張所の指揮監督の下に勤務するものなりと云ふ

●柳麟錫の所在地

去る明治二十九年韓西地方に於て義兵大將として有名なりし柳麟錫は昨年の暴動發生以來黃海道方面より京城附近に來り過日捕はれたる許蔿と氣脈を通じ各所に於て暴動し京城に入らしめんとしが此頃に至り重なる首領は戰死し又は捕はれたるのみならず警戒甚だ嚴なるを以て柳は寧ろ北韓國境の如き警備薄き地方に於て旗を揚ぐるに若かずと過日其根據地より逃れて淸領に入り現に吉林省の某地にありて間島の暴徒と連絡を通じ一方李範允と合同し間島方面より北韓を襲擊せんと畫策しつゝありと同地方よりの通信に見へたり

●水雷艇と千早

過日來より仁川近海を遊弋中なりし水雷艇鵜、鷂、燕の三隻は昨日午前十時入港したるが宮楯警察署長は直ちに水雷を訪ひ海賊掃討の報告を告け且今後の討伐方法につき審議する所ありたりと尙傳ふる所によれば軍艦千早は兹前日中に仁川引揚歸航すべしと

●憲兵補助員に就て

近來憲兵補助員の或は職權を亂用して脅喝を爲し或は賭場に亂入して金錢を私する者ある旨傳へられ爲めに補助員の功果に就き危む心も生せしにより本日記者は該隊本部に至り其實情を尋ねしに當該官は語るらく補助員の事に就ては當本部に於ても目下試驗中に屬し日々の報告を統計となし其功果如何を究め居れるが兎に角四千五百の補助員を四百五十ヶ所に散在せしめし事とて或は職權を亂用して醜行を爲すものなしと限らず現に本部の報告に接せし者四件ありて之等は直ちに解雇し居れり然れども又一方には數名の補助員能く數十名の賊を擊退せし美擧もあり元來韓人の事なれば深く注意し必らず日本憲兵に隨行せしめて其職を採らしめつゝあれば彼等若し惡意ありとするも之をなす機を得ざるなり又或郡守の如きは其自身の非行を知れる補助員が其部內に在りしを以て暴露せんことを恐れ反つて補助員に非行あるが如く報告して之を退けさせし事もあり目下四千五百の補助員は能く我憲兵の指導に從ひ地方の保安に務め比較的良好の效果を擧げある折柄二三補助員の非行を擧げて全般を論じ其信用を墜落せしむるが如きは大に考へざるべからず之を要するに前にも云ひし如く本部に於ても其效果如何に就ては非常の注意を拂ひて試驗中なれば各新聞社に於ては其意を諒せられ本部に就き實情を觀られたきものなり云々

●仁川經濟會組織

仁川繁榮期成會は明日午後より民役所樓上に於て第三回集會を催し車輛會社設立に就き審議したる結果鐵道工作所は現に龍山に設置すべく其筋の認可もあれは今更仁川に變更するは難ければ仁川には私立鐵工所を設くることゝし其目的の下に從來の繁榮期成會を仁川經濟會と改稱し何人にも入會を許すこととし會費を徵せずに每月一回集會每に會費支拂を受くことに定めたり而して鐵工所(即ち車輛會社)設立については目下本邦經濟界稍順潮に向ひたるも未だ韓國の私設會社に放資する程の餘裕を生ぜざる狀態なるを以て今直ちに具体的に創立事務に着手するは時期尙早の嫌あるに依り兹暫く財界の好調を俟ちたる後具体的の準備に着手する事に決したりと

●博覽會打合會

昨日午後一時より農商工部に於て趙農相中村同次官代理鶴岡同書記官黑岩礦山局技師鈴木度支部司税局長(澤田內部地方局長は病氣にて缺席)等博覽會開設準備に關する打合會を開き開設準備に關する大体の協議をなせり

●人蔘の拂下入札

既報の如く一昨二十五日度支部司税局に於て開城第一銀行支店倉庫內なる人蔘壹萬二千八百四十五斤の拂下入札を執行されたるが去月十日の公告に基きて入札を指名されたるは三井物產會社同順泰世昌洋行、裕豐德の四名にして入札の結果は價格五十六萬壹千圓にて同順泰に落札せり

●鐵道管理局の反省

鐵道管理局に於ては輿論の反省をも顧みず本年四月一日以後韓國鐵道賃金の改正をなしたる結果長距離低減法を執りたる爲め短距離賃金は非常の割高となりこれが爲め短距離乘客の減少を來し爲めに其收入上著しき影響を受くるに至りたれば同局に於ては大に省みる所ありしと見へ今回短距離賃金の低減を行ふこととし近々中實施するに至るべしと

●仁川經濟會創立會

昨日午後二時より仁川商業會議所樓上に於て酒商組合創立會を催したり

●愛國婦人會の祝詞

本二十七日は韓國皇帝即位第一年祝典に相當するを以て愛國婦人會韓國本部にては祝意を表する爲め小宮、三浦兩本部副長宮中に參闕造花一箱を獻上し祝詞を言上す可しと

●ユスラシャンペン試驗

度支部財源調查局にては財源涵養の目的を以て諸種の生產品に關する調查試驗を行ひつゝありて本年は先づ韓國各地到る處に產出する櫻桃を原料にして酒類の釀造を試驗したるが元來櫻桃は一般に酒類を製し難きものとせしに試驗の季節が最も酷化し易き時なりしに拘らず毫も其の障害なく一種固有の醇味に依り盛んなる醱酵を遂げユスラシャンペンを製成するを得たり固より假試驗にして完全なる機械を使用したるに非ざれど此の成績頗る良好なりしと云ふを得ざれども風味葡萄酒に酷似し夏時の飮料としては最も適當なるが如し若し原料の撰擇設備の完全を圖らば品質醇良となり將來韓國特產の銘酒となすを得べしと

●鑛業許可

△八月七日、二三九號、鐵鑛、慶尙南道梁山郡上西面、下西面、四三九一〇六坪、釜山北濱町一丁目八德松道大郎外、二△八月十五日、二四〇號、鐵鑛黃海道黃州郡幕坐坊松林坊、八八五、二六八〇坪、京城南山町百九十四番小田千多穗△八月十五日、二四一號、銀鑛、慶尙南道東萊府南上面、六三七、五五六七坪、京城南山町三丁目六十五田中光太郎△八月十九日、二四二號、鐵鑛慶尙南道全海郡樂山面臺北面、二八八、二八八坪、釜山港辛町二丁目一白石寅之助外一名、八月十七日、二四三號、銅鑛、咸鏡北道吉州郡德山社、三一七、九〇八坪、城津港各國居留地三十一號地梶野仁之助△八月廿一日、二四四號、黑鉛忠淸北道報恩郡馬老面、九三四、五七〇坪、釜山港入江町二十一小宮萬次郎外一名△八月一日、一三六號、砂金、全羅北道南原郡周浦面外二名△七五町一五間、京城本町六丁目五四中塚隆稔外一名△八月七日、二三七、砂鐵江原道洪川郡斗村面、九一、三五四坪京城南部闕見井洞六十九統十戶白永基、鄭雲透外一名

●水產會社の招待

一昨日午後七時より仁川水產會社及新原會頭等は目下滯仁中なる長崎縣秦事務官を一山樓に招待す

●韓兵射的場設置

韓國近衛步兵隊にては今回奬忠壇附近に射的場を設置し來る九月一日其落成式を行ひ當日より翌日まで二日間實彈射的を行ふと云ふ尙每月二回宛實彈射的をなすことゝなせり

●大同會事務所移轉

大同會事務所は今回中部校洞十二統十戶に移轉したり

●大韓婦人會演藝會

は本日より晴雨に係はらず三日間開演の筈なりと

●任命及敍勳

任襄陽郡守敍奏任官二等 內部主事 崔鍾洛
林川郡守 金應圭
依願免本官 農商工部技手 姜拱璉
任警視敍奏任官四等
日本國陸軍步兵大佐 橫山新治
敍勳二等賜八卦章

●分署長の交迭

銅峴分署長たりし牧野警部は既報の如く今回光州署勤務を命ぜられたるを以て其の後任として從來北署勤務なりし田邊警部任命せられたり

●警部の任命

警視廳警務局在勤巡查たりし山崎信平氏は昨日警部に任ぜられ大宮警察署勤務を命ぜられたり

公人私人

▲眞家六麗(元山財務監督局經理課長)淸尾旅館
▲江良文陣(陸軍通譯官)牧野旅館
▲シフキーアンチル(安東縣米國領事)巴城館

●近事片々

▲曾禰 副統監も最早韓國の事も大体解したるべく徐々手腕を示してはと言ふ者あり
▲然り 餘り無爲なると人心も倦み衆人の期待に對して少しは手腕を示すも可ならむ
▲或者 は曾禰子は元來手腕杯はなし部下に良き人物なければ何事も爲し得ずと云ふ
▲豈夫 曾禰子と雖も評者の云ふが如きものならんや併し全く腕利と申す人にも非ず
▲果し て評者の言へる如くなれば部下に今一層手腕ある人物を包容する必要に有
▲現今 の處全く其人に乏しき觀あり委細官に新人材を容れて技倆を揮はしては如何
▲伊藤 公の爲す事を熱と眺むる事務家斗りでも余り心細い所謂政務家が必要でムる
▲伊藤 公や曾禰子の手足となりて眞に韓經營に敏腕を揮ふ人が必要ではムらぬ乎
▲事務 家斗り鼻を揃へ大將のすることを觀望するも興か薄いとは大向の評判でムる
▲幕合 が長いと見物人は体屈する殊に年前から掛て居る演劇とては尙更体屈れ
▲豈夫 役者がある以上は見物人が揮毫に上る譯にもならずハテ偖困つた者でムる哩
▲役者 がなければ見物人が素人芝居でも打たらが夫もならず幕計り見て居るも辛氣
▲外國 邊では役者が後見で素人芝居をやらして大當に當てた事もムる偖もどかしい
▲役者 は素人々々と馬鹿にするが素人でも上手なら玄人の大根よりは餘程優でムる
▲每度 申様だが我對韓經營は日暮れて道遠しとムりまする故に速力を增すが必要也
▲仁川 民團議會も民長官撰に對する決議をなし委員の副統監面接も亦一策なるべし
▲膝を 接して能く利害を說かば意志疏通して却て速に解決するやも知れず結果如何
▲京城 民團議員に對する如く面會を斷ることなく速に面會をして雅量を示すや如何
▲前例 に依りて面會の要なしと拒む場合には仁川は如何なる態度に出づべきか刮目
▲拓殖 副總裁韓人側は趙義淵か李根澔なるべしとの事先づ茲等が適當の人物ならん
▲趙義 淵の溫厚にして策士に非ざる副總裁として員に備はる最も恰當なる資格なり
▲殊に 宇佐川中將とも親善なれば副總裁として圓滿に事を運ぶに最も都合よからん
▲種々 の利權により成功せるコールブラン氏事業を讓りて歸國するとの說あり眞乎

短編小說

指環 中の三 青楓作

「所でだね忠雄君、僕の友人に一人の失戀者があるのですがね、之なぞは互に名入の指環まで取交はし、夫は〱實に他人の見る目も羨ましい程、戀は濃密であつたのです、スルト其の婦人と云ふは、恰度十日許前に東京の或銀行家から嘱望れたとかで、忽ち虛榮の夢に憧がれ、心は動搖してとう〱僕の友人を捨てゝ仕舞つたのです、夫からといふ友は、毎日其の指環を眺めては口惜しい〱しいと泣いて居るのですが、實に悲慘の極ですよ、一體が內氣な男であるから人にも多く語らず、唯一間に蟄居して日増に身體も衰へ元氣は沮喪して見る影もないのです、幷して僕が行つては度々夫んな無情な冷酷な婦人などを、何時までラブして居たところで仕樣がないから、何も止ぬるが可い、最う斷念し給へと云つてやると、君までが夫んな冷酷なことを言ふのかと、言つては又潸然と泣くのです、ア、人生に失戀ほど悲劇はあるまいと思ひましたよ」

立見は諄々と語り來つて、悄然として深くも感ひに沈むのであつた。

芳子は終中始下俛きツクネンとして、二人の對話に耳傾けて居たが、今立見の言葉の了ると同時に、芳子の顏は傲いほど蒼青になり、豐かな頰の肉に泛ふ鼓動は幽に見ゆる、一座は寂然して仕舞ふ。

稍て又立見は、

「若し僕がそふいふ位地に立至つたと假定するならばですね、無論僕は發狂しますね、而して其の愛の血の冷へ切つた、婦人をば殺します、虛榮心に富んだ婦人などは、社會の毒虫であるから、僕らは社會に代つて殺して仕舞います、そして自分も潔よく死んで仕舞ふと思ひます」

「成程、御道理です」

忠雄は心に思ひ當るところがあるかの如く氣のない返事をして、座を立つて仕舞ふたので一座はます〱白け渡つて、軒下を通るアイスクリームの賣聲さへ、いとゞ哀れに聞ゆる、芳子は打顫ふ聲を漸う押へて

「立見樣、どうぞ御許しなさいまし、中尾樣を精神的に殺したのも皆な友達の貴方にまで一方ならぬ御心配を御掛け申したのも、皆な妾の罪です、今更に後悔を致しましたところで、此の罪は償はれるものじやあり ませんけど……立見樣ッ中尾樣が復活なされて再び世に出られるやう、貴方の御盡力を願たう御座います」

湧き來る熱き淚は、ハラ〱と膝上に落つる

「中尾を復活させると否とは、貴女の御心一つで決定するのです、僕が千萬の腦力を絞るよりか、貴女の一言で容易く出來ることであらうと思ひます[illegible]

芳子さん、貴女が眞實中尾は憫然な奴だと御思召ならば、何卒最う一度思ひ直して下さいませんか」

「……」

固く默せる芳子は、遂に居堪まらず、立見の側を立ち去らんとして倒れた。

●洪原邑の水害

本月十二日の降雨にて咸南道洪原邑に水原ありし事は既報せしが其の損害調査を見るに左の如し家屋全潰七戶此の損害額四百圓、同半潰八戶同百圓、浸水家屋四百戶同三百圓、器物破壞百四十五個同八十五圓、雜穀流失九石同百圓、獸畜の損害豚六頭同十五圓、橋梁流失四ヶ所同五十圓、損害合計壹千五十圓

●日韓書房の開業一週年

兼て本紙廣告欄にありし如く本町三丁目書籍文具商日韓書房にては本年今月が恰も開業滿一週年に相當するを以て[illegible]の祭典に際し賑いんが爲め去る二十三日より賑々しく大賣出しを行ひたりしが一圓以上購求のものには福引券一枚を進呈する筈尙右福引券は一等金百圓(一本)二等金三十圓(一本)三等金十圓(一本)四等金五圓(三本)五等各商店商品券(五本)六等以下二十等迄は同店商品券を呈する規定の由なるが最終の賣出し期日は來月五日なれば此の機を逸せずドシドシと購求せらるべし因に同店が現在の新築家屋に店を開きてより又今月が丁度一週年に當れるとかなるが不相變同店の營業振りが大勝に又勝掲にして些のコセつきたる所なきはいつもながら感服の外なし

●南平郡守拘引

全羅南道南平郡守李峻奎は盜守盜を以て本月十二日光州地方裁判所檢事長北村五七郎氏の令狀に依り拘引されたり

●暴徒村民に撲殺さる

慶尙南道咸陽郡上恒面基村居住李昌鶴及び其の子鳳計の兩名は豫て暴徒に與して附近の良民に對し暴行を働くこと甚しければ村民等は兩名を虎の如くに恐れ憎み居りしと云ふ兩名は曾て洋銃代として金三十圓を徵收したることありしが今回洞內の人民等申合せ改心歸順を申出でんことを勸めしも遂に之を聽かず益々狂暴を逞ふせんとしたるにより附近六ヶ村の者協議の上兩名を捕へて之を撲殺して其死體を洞民に引渡し埋葬せしめたりと云ふ

●因果は廻る小車(三)

梅香は本名をセーと呼べるが何時如何なる時代に習ひ覺へしものか謠讀は云ふに及ばず茶の湯生花鍛式等一通り師の役としては勤へ居りソレこそ何處へ出しても恥しからぬ程なるがソレはさて女は夫と別れてより嬰兒を抱いて獨り寂しく本鄕のある裏店に住ひ移すこともなく其の日〱を送り居りしに丁度其の頃豫て別れし夫の部下に當る大塚某なる曹長が女の身上よりはまだ西も東も分らぬ憐なる嬰兒の身の上を痛く氣の毒に思ひソレに自分は當時子寶とては一粒[illegible]しかば女に談合してヤッとのこと嬰兒をば自分の娘に貰ひ受けたりしが此れぞ却て當時女の爲めには身の振り方をつくる上に於て幸福なりしなり、サテ女は嬰兒を大塚曹長の許に養女として遣はし今は何等の足手纏ひもなくなりしより愛に殊勝にも女ながらも獨立獨行にて身を立てんとの志を起し折柄の日露戰爭を機とし良くいへば博愛仁慈の女神ともいふべき赤十字の看護婦を志願し希望通り[illegible]の戰地には乘り込み[illegible]しが幸に[illegible]に身に過なく滿八ヶ月の後目出度鄕里東京に歸りにきソレより女は差し當り爲すこともなく暮し居りしが頓て義兄の盡力と出金とにて大阪にて何興會を興し同地の貴婦人連は申すに及ばず其の他各地方の貴婦人連をも網羅して會員組織となし自分は幹事として之が牛耳を執り居りしが幷はホンの束の間幾許もなくして同會は終に解散の已むなきにいたり女は盡きぬ憾みを抱きて又々鄕里東京に歸らねばならぬ破目とはなつたり、解散の原因といふは前記の大塚某なるものが軍籍を脫してある事業に手を出し其の結果散々の失敗を招ぎたるより禍せしものなるが這はソマリ大塚の金策の問題について女が連署をなせし爲めなりとかいふ、何の道女は思ふこと違ると何れも〱失敗に終るよりイッソ場所を替へて新なる運命を開拓せんには愛に韓國行を思ひ立ち孤身猶然女の身の雄々しくも本年一月當地には來れるなり尤も故鄕を出立の際義兄より紹介狀をもらひ龍山なる某陸軍少佐ちやうを賴りて一時身の振り方を依賴せしも、賴りとせしは身の不覺一も二もなく刎ね付けられしより今は已むを得ず前記の○萬に厄介の身となり時々は在りし昔の榮華を夢み居るとかいふ(終)

●怪しき閃光

流石に新町遊廓は各樓にも未だ電燈の光眩ゆきまでに輝き出づ[illegible]主義の遊冶郎が乘れる車の音も一つ二つしてニ階には綺語嬌々として嬌聲の漏れること頃は稻荷堂の方に當りて一道の光ことそ閃めきしも郭外は宵に寂々として惡打つ雨の音の外みしても所々に[illegible]の聲の聞ふる、昨夜の一時たれ之を見たる人は稻妻かあらぬかと疑ひ何うやら斯う滯ボンヤリとなりきながら降る雨風に傘を破られはしと傾けながら心願の節ありて稻荷堂に參詣したる後から心願の[illegible]高樓より湧き務めに大望ある身もいつしか入つて喰はれて了はれては虎兒を得ざれば何んの甕と許りに力身返つて見たものゝ又挑悸として羽化登仙の思ひありしが虎穴に何うやら斯う[illegible]しかば思ひ切つて廓を飛び出し見返り柳の籬近來掛ると向ふから二輛の車は景氣よく[illegible]北漢山の方を望み居りしが此時又た義親王用地なる松樹に閃光を發したれば某は夫れで稻妻とのみ思ひしが今の光に由れば左もないらしい果て何物だろうと愈よ怪しみ其方に向ひ暫くは眸を凝らし居りしが前の閃光は不思議や一塊の怪火となりて長き白き渦き帶の如き煙を殘して遊山樓裏手の松林中に飛び去つたれば某は此に於て初めて怖氣を生じ總身水を注ぐ如くになりたれば大に恐れ腰を拔さん計りに凸凹の道なるをも構はず一散に驅け出し家に歸り付くや否や倒れて生體もなかりしと本人の實話を其て風を切つて我が柳を掠め廓內に入りしが其の車上の客は確かに見覺ゐのある面差しなりしもマッ〱愛には許し置くべし其の外何も報道するの材料を得ざりしは新參の身のサテも是非なき次第なれ

統監府通信管理局囑託醫學得業士 池田季雄

先般漢城病院內科部を辭し歸省中の處歸京左の所に於て診療に從事す

理事廳前



●花柳界一廻り

別に思ひ出した譯ではないが何んだか斯う家にヂッと坐つて居るのが退窟なやうな氣持がするので御苦勞樣にも一昨夜の午後八時頃降りしきる雨を冒しつゝ花柳界(淫賣窟も含む)一廻りと出掛けたは實際物好きにあらぬ是れも職掌柄と御察しあれマヅ最初足を向けたのが太平町通り○萬新月二葉丸山亭あたりのヘナチョ

●賭博

旭町二丁目菓子商西畑岩吉、同三丁目同商土井初三郎、明治町三丁目可部與三郎、の三名は一昨日四時頃前記西畑方にて盛んに賭博を爲し居りし所を巡回中の巡査に發見され不埒者奴が聲諸共に本署に引致されたり

●民團吏員ご僞稱す

一昨二十五日午後五時頃鐵道官舍二十七號花田なる者の家へ民團役所の吏員なりと稱する一人の若者來り家人に向つて稅金を納付せよと迫りたるより家人は爲念何か徵稅の證を示されよといひたるに右の若者は大に當惑し其まゝコソ〱逃げ去りたりといふ

▲電話讓物あり 望の方は明治町一丁目漢城病院下四軒內館井方迄▼

▼電話○九一三番▼

●流行病

蓬萊町一番戶の一村田市三郎長男村上勝(四才)は赤痢に罹り殆んど死に瀕せるを以て戶田病院に入院せしめたり

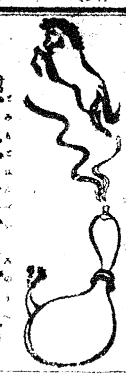
●一昨夜の出齒り數

一昨夜新町に出齒つた出齒龜の親類は如左 月下樓四、大榭樓十二、南山樓五、皆春樓十二、松葉樓十二、井門支店三、第一樓本店八、四、第一樓支店十、京城樓八、高島屋六、淸月樓七、總計八十四此の出齒り料四百二十六圓七十一錢なり

●天氣豫報(自廿六日午後六時 至廿七日午後六時)

北又は東の風曇少雨

二十六日午前六時各地氣象概況 東の風吹中部は雨天其他は曇天にして今朝低氣壓は黃海に七百五十粍を示せり



狂訓 富本半平の身上（三）

離れば離るもんですな夫れで其半平さんといふのが至極の酒好きで朝起きると楊枝を使ひながら片手で徳利を振つて見るといふ玉で夫りやア隨分可笑しいれ咄しが御座いますよ

先代の半平さんといふ男は起きると直ぐ徳利を振つて見るといふ酒好でしたから年が年中酒を絶やした事がありません夫れで暇さへあればチビリ〳〵と飲んで居る御酒家の方は宜う御存じで入らしやいましようが好酒家などゝいふヤツは相手をほしがるもので誰か居ないと納ら無い半平さんも其通りで手前は始ッ終れ膳の向ふに座らせられました最初のうちは飲けない口でしたから夫りやアナカ〳〵辛うムいましたが段々慣れるに連れて味を覺ね見事半平師匠の對敵が勤る樣に修業を積んぢまつて只今の樣な大酒家に相成つたのですが……考へて見ると餘り賞めた修業ぢやアありません

半平師匠は酒も飲むが藝事も達者で鳥渡した事をしても何處か垢拔がして居りました其頃宇治藩二といふ幇間が居て此れが又ナカ〳〵の如才無し家で馬鹿に口先の甘い座持の上手な男でしたが或日魚河岸の御連中のれ座敷へ半平師匠と一所に聘ばれると善二は此處を先途とれ世辭を振りまいてれ客樣の機嫌を取り結んで居るに引き換へ日頃口無調法の師匠はお客樣に嬉しがらせをいふぢや無し一ッ所に御輿を据わたなり動きもしないで斯う前こゞみの形で例の通りすどんだなりで好な御酒をチビ……リ〳〵と飲んでは只もう泰然自若と控へて居るのです隨分不精な幇間があればあつたもんです然し其頃た遊びのれ客樣方……殊に魚河岸の御連中と來ては宜く師匠の氣心を御存じでムいましたから左のみ氣にも掛けず半平相變らず宜く飲むナ……如何だ何か見せて呉れとれつしやるのでへイといつて立ち上り腕に覺ひの枯れた藝を御覽に入れて元の座に引き下りますと其處からも此處からもヤンヤといふれ聲掛りなんかムいましようムッと來たのは一座をして居た善二さんで俺が斯して一生懸命れ座敷を取り結んで居るのに半平の野郎身體を動かしもしないで居て下らない事で落を取りやがら葉イマイマしいといふ氣が胸に浮んだがまさかにれ座敷で突ッ掛る譯にも往かず虫を押へて我慢をして居るとゾロ〳〵れ客がれ立ちになる其處で善二さんはれ肴を折箱につめる汚れ物を取り片づけるといふので一人で頻と立働らいて居るのに半平師匠は平氣なものでフイと其座を起つたかと思ふと便所に這入つちまつた

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金貳圓▲六ケ月前金貳圓▲郵稅一ケ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新聞社 電話六六三番